

希少樹種のテーブル展示

工房併設で作業風景も

村上木材・M'S

村上木材(大阪市、佐原謙次社長)は、ムク材一枚板などのテーブルを展示する事務所「OFFICE M'S」をオープンした。

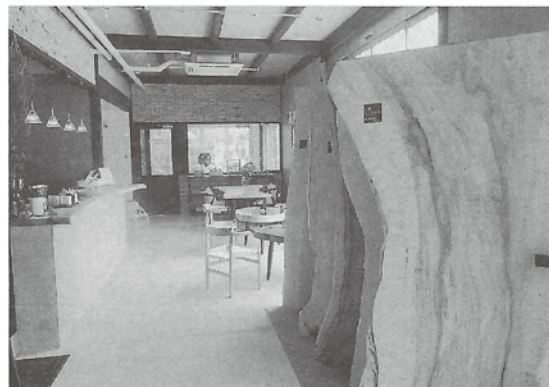
創業125年の同社が持つ国内外の銘木産地との独自のネットワークで、人気樹種、希少な樹種のテーブルやカウンタートップ用一枚板、いすを取りそろえている。1階の天井高は約3・5メートルと開放感があり、長物の商品が展示できるほか、事務所併設するカフェ

(港湾地区向け)には商品のテーブルが実際に利用されている。専任スタッフ3人が商品説明をする。

事務所の1階には、研磨や塗装などの工程を担う工房室があり、作業風景などを見学できる。元ギター職人の得居兼太氏(同社プレカット部)が、atarabara(アタラバ)が、セラミック塗料を基本にムク材一枚板の仕上げ作業を行う。同塗装は、木の繊維の奥深くまで入っていく超浸

透性を持つ。水分を弾きながらも呼吸性を確保し、セラミック特有の分子の安定性・耐久性・防汚性・抗菌性をもち、表面に塗膜を形成しない木肌を生かす仕上がり感が特徴だ。

2階には、商品を展示した打ち合わせスペースを設けている。建物は、木造在来工法2階建てで、建築面積40・08坪、延べ床面積71・35坪。重量のある一枚板のテーブルなどを展示し、柱・梁(最大サイズは幅135×梁せい390)には強度のある米松集成材を使用している。敷地内にはウッドデッキテラス34坪も設けている。これらの木工事は、同社の社内大工が担当した。



1階は開放感があり、一枚板が展示されている

同社プレカット工場であるプレテック(同、矢山勝司社長)で部材加工した工務店やビルダーに、M'Sを利用してムク材のテーブルやカウンタートップなどを比較的安価で提案してもらおうことと、他社との差別化

を図る目的がある。同社プレカット部リーダーの天野愛氏は「この大きさの一枚板を手で触れて、目で見て確認する場所として利用してほしい」と話す。